

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	なないろ楽団		
○保護者評価実施期間	令和7年9月2日 ~ 令和7年9月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1 (回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和7年9月2日 ~ 令和7年9月19日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげていきます。	子どもたちの様子や、その日の出来事など記録を残し活動の内容に反映できるよう振り返りをして次回スムーズに行えるようにしています。	過去の事例などを通してより良い記録となるよう打ち合わせの中に取り組んでいきます。
2	支援終了後には必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有をしています。	支援終了後には打ち合わせを行い、その日の出来事、問題点、改善点などより良い療育内容となっていくよう共有を行っています。	子どもの成りや躓きに気が付くために職員の中でも他事業所の事例などをあげより良い療育内容となるようにしていきます。
3	個別にプランを作成し療育を行っています。	子どもたち一人ひとりに合わせた活動内容を行っています。	取り組みの中で改善できるものを考え新しいものを提供できるように取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援に課題があります。	作業療法士、言語聴覚士、心理的支援など専門職による直接支援が望ましいですが、現段階では、確保することは難しいと考えています。	現在の職員に対して、基本的な知識や技術を学ぶ研修を行い、実践的なスキルを身につける機会を作って支援していきます。
2	事故対応、災害対応等の緊急時の対応マニュアルは整っており、訓練も行っているが、実際の緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるよう、全従業員に周知と訓練を行っていくことが必要だと考える。	マニュアルは情報量が多く、実際に対応する際に、スムーズではない可能性がある。	より手順を分かりやすくしたフローチャートの整備や、訓練が必要だと考える。
3			